職業実践専門課程等の基本情報について

学校名			F月日	10	長名			所在地		
熊本デザイン専門	門学校	平成5年12	月24日	校長「	内藤謙一	テ (住所)	862-0973 熊本県熊本市中央区 096-364-8500	大江本町2-5		
設置者名		設立認可名	F月日	代表	長者名	(電話)	862-0976	所在地		
学校法人未来創:	造学園	平成22年3	月2日	理事長	吉山昌利	(住所)	熊本県熊本市中央区2 096-362-5656	九品寺2丁目2-38		
分野		認定課程名	メディ	認定学科をイン映像デザ	オイン科	専	門士認定年度	高度専門士認定年		門課程認定年度
文化•教養		公教養専門課程		リエイティブ			艾27(2015)年度		<u> </u>	8(2016)年度
学科の目的	映像、CG. 目的とする		チメディア等の	ラデザイン分割	野において、情	報社会に	適応する幅広い知識と実	践に必要な技術を持っ	た人材を育成し、業界	へ送り出すことを
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	色彩検定	、CGクリエイター検り	定、情報検定((J検)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必	要な総授業 単位数	時数又は総	講弟	Ė.	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いず かに記入	1,920) 単位時間	120	単位時間	1,800 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
生徒総定員	生徒劉		生数(生徒実員)	単位 の内数)(B)	留学生割	単位 合(B/A)	中退率	単位	単位	単位
50 人	41	,	C	入	0	%	10 %			
20	■卒業者	·数 (C)	:	6		ا	-			
	■就職希 ■就職者	·望者数 (D)	:	5 5		人人	-			
		職者数(F)		3 100		人 %	- -			
		に占める地元就職	者の割合 (F∕				-			
	■卒業者	に占める就職者の害	合 (E/C)			%	-			
就職等の状況	■進学者			83 0		<u>%</u> 人	= =			
州戦寺の仏 流	■その他									
	(令和	6 年度卒	美者に関する令	合和 7 年5月	1 日時点の情幸	股)				
		職先、業界等								
	(令和6年度	[卒業生)		← #:1.14b						
	吨	CC制作 Web制	作 広生制化							
		、CG制作、Web制		下、製造						
毎一老/- L Z	■民間の	、CG制作、Web制 評価機関等から第 、例えば以下についる	三者評価:	下、製道			無			
第三者による 学校評価	■民間の ※有の場合	評価機関等から第	三者評価:	作、裂道	平安年日.			結果を掲載した		
学校評価	■民間の ※有の場合	評価機関等から第	三者評価:	下、製道	受審年月:		評価	結果を掲載した ムページURL		
学校評価 当該学科の	■民間の ※有の場合	評価機関等から第	5三者評価: 5任意記載	下、製道	受審年月:		評価			
学校評価 当該学科の	■民間の ※有の場合	評価機関等から第1、例えば以下について 評価団体:	5三者評価: 5任意記載	下、製道	受審年月:		評価			
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定)	5三者評価: 5任意記載	下、製造	受審年月:		評価			
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 t、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 並時間による算定) 総授業時数	E 三者評価: 任意記載 sign.ac.jp			to not side.	評価		1,920 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企:	3三者評価: 在意記載 sign.ac.jp	た実験・実習	g・実技の授業	类時数	評価		単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-dei 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち企:	3三者評価: 在意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 業等と連携し	た実験・実習	g・実技の授業	美時数	評価		単位時間 45 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-dei 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち企:	E三者評価: C任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 業等と連携し 多授業時数	た実験・実置	g・実技の授業		評価 水一		単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-dei 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち企:	5三者評価: C任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 業等と連携し 多授業時数 うち企業 ⁶	た実験・実習た演習の授業等と連携した	習・実技の授業 業時数	実習・実持	評価 水一		単位時間 45 単位時間 45 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち必む	5三者評価: (任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 業等と連携し 多授業時数 うち企業(うち企業(た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	雪・実技の授業 業時数 二必修の実験・	実習・実 担 受業時数	評価 水一		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等とと連携扱した決実	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 5、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち必付	5三者評価: (任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 業等と連携し 多授業時数 うち企業(うち企業(た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	習・実技の授業 素時数 二必修の実験・ こ必修の演習の	実習・実 担 受業時数	評価 水一		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 5、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち必(うち必)	5三者評価: (任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 業等と連携し 多授業時数 うち企業(うち企業(た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	習・実技の授業 素時数 二必修の実験・ こ必修の演習の	実習・実 担 受業時数	評価 水一		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携しした況へた況(A、Bいずれんか	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち必((うち:	5三者評価: C任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 多授業時数 うち企業等 うち企業等 と連携	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した いちない に に た に た に に に に に に に に に に に に に り に り	習・実技の授業 業時数 =必修の実験・ =必修の演習の -ンシップの打	実習・実 対 受業時数 受業時数)	評価 水一		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 単位時間 0 単位	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等をと連携した況 た 戻(A、Bいずれ)	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち必(うち必) (うち: な数による算定)	5三者評価: C任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 多授業時数 うち企業等 うち企業等 と連携	た実験・実習の授業等と連携した 等と連携した したインター た実験・実習	留・実技の授業 業時数 = 必修の実験・ = 必修の演習の - ンシップの打 目・実技の単位	実習・実 対 受業時数 受業時数)	評価 水一		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等をと連携した況 た 戻(A、Bいずれ)	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から算。、例えば以下について 評価団体: 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では 一述 一述 	5三者評価: C任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 多授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携	た実験・実習の授業等と連携した 等と連携した したインター た実験・実習	留・実技の授業 業時数 = 必修の実験・ = 必修の演習の - ンシップの打 目・実技の単位	実習・実 対 受業時数 受業時数)	評価 水一		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 40 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携した況へた況へ、Bいずれた	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から算。、例えば以下について 評価団体: 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では以下について 一部では 一述 一述 	S三者評価: C任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 多授業時数 うち企業 うち企業 企業等と連携し 業等と連携し 業等と連携し 業等と連携し	た実験・実習 た演習の授素 等と連携した したインター た実験・実習 た演習の単位	留・実技の授業 業時数 = 必修の実験・ = 必修の演習の - ンシップの打 目・実技の単位	実習・実 授業時数) 受業時数) 立数	茶の授業時数		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 40 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施洗れた にたスイス・といずれた	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から算。、例えば以下について 評価団体: 	5三者評価: (任意記載 (任意記載 (任意記載 (日意記載 (日意記載 (日意記載 (日意記載 (日本記述 (日本記述	た実験・実習 た演習の授事 等と連携した したインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した	習・実技の授業 業時数 こ必修の実験・ こ必修の演習の 一ンシップの搭 習・実技の単位 立数	実習・実 授業時数) 受業時数) 立数 実習・実	茶の授業時数		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 40 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携した況へた況へ、Bいずれた	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から算。、例えば以下について 評価団体:	5三者評価: C任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 多授業時数 うち企業等 企業等と連携し と連携し を主連携し な企業等と連携し な企業等と連携し を登達地し を登述する。	た実験・実習 た演習の授乳 等と連携した したインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した 等と連携した	留・実技の授業 業時数 こ必修の実験・ こ必修の演習の 一ンシップの搭 留・実技の単位 立数	実習・実 授業時数) 受業時数) 立数 実習・実 単位数	茶の授業時数		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 40 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施洗した況へんので、	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から算。、例えば以下について 評価団体:	5三者評価: C任意記載 Sign.ac.jp 業等と連携し 多授業時数 うち企業等 企業等と連携し と連携し を主連携し な企業等と連携し な企業等と連携し を登達地し を登述する。	た実験・実習 た演習の授乳 等と連携した したインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した 等と連携した	習・実技の授業 業時数 と必修の実験・ と必修の演習の 一ンシップの技 当・実技の単位 立数 こ必修の実験・ こ必修の実験・ こ必修の実験・	実習・実 授業時数) 受業時数) 立数 実習・実 単位数	茶の授業時数		単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 45 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携しした況からに、	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から算 た 例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち必! (うち: 立数による算定) 総単位数 うち企: うち企: うち企: うちか!	5三者評価: C任意記載 (日意記載 (日意記載 (日意記載 (日意記載 (日意記載 (日本記載 (日本記述	た実験・実習の授事 等と連携した を実験・実習の単位 た実験・実習の単位 になインター た実験・実 したインター したインター したインター したインター したインター したインター	留・実技の授業 業時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・シップの搭 ・実技の単位 立数 ・必修の演習の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実習・実指 授業時数) 立数 実習・実 単位数 単位数)	茶の授業時数	A~-YURL	単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 45 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携した況へた況へ、Bいずれた	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 ま、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企	5三者評価: 「任意記載 「	た実験・実習の授事 等と連携した を実験・実習の単位 た実験・実習の単位 になインター た実験・実 したインター したインター したインター したインター したインター したインター	留・実技の授業 業時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・シップの搭 ・実技の単位 立数 ・必修の演習の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実習・実計 沙授業時数) 立数 実習・実計 単位数) (専修学	ず価 ホー 支の授業時数 支の単位数	ホページUR L	単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 40 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施状力 に記入)	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: www.kumamotoーde: 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うち必・ (うち: 立数による算定) 総授業時数 うち企: うち必・ (うち: である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	5三者評価: 「任意記載 「任意記載 「任意記載 「明本 「「任意記載 「「任意記載 「「日本記載 「日本記載 「「日本記載 「日本記載 「日本記述 「日述 「日本記述 「日本記述 「日本記述 「日述 「日本記述 「日本記述 「日本記述 「日本記述 「日本記述 「日述 「日本記	た実験・実習の授事 等と連携した を実験・実習の単位 た実験・実習の単位 になインター た実験・実 したインター したインター したインター したインター したインター したインター	留・実技の授業 業時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・シップの搭 ・実技の単位 立数 ・必修の演習の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実習・実打 沙授業時数) 立数 実習・実打 単位数 (専修学	評価 ホー 支の授業時数 支の単位数	点ページUR L 第1号) 第2号)	単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 4 単位時間 単位時間 単位時間 単位中間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL を実等等の実施がれかに記入)	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大)	s=者評価: C任意記載 sign.ac.jp 業等とと連携 をを楽等とと連携 うちとと連携 を企業等とと連携 を全まます。 な変異 な変異 な変異 な変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を	た実験・実習の授業 等と連携した た実験での単位 た実験での単位 たた演響の単位 たた演響の単位 たた演響の単位 もたがあってとき やでもあってとき したオンター	留・実技の授業 業時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・シップの搭 ・実技の単位 立数 ・必修の演習の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実習・実ł 沙授業時数) 立数 実習・実ł 単位数 (専修学 (専修学	評価 ホー 支の授業時数 支の単位数 なの単位数 なの単位数	本ページURL 第1号) 第2号) 第3号)	単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 40 単位時間 単位時間 単位時間 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL を業等等の実いずれかした況かいに記入)	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企: うちか。 (うち: 立数による算定) 総授業時数 うち企: うちか。 (うち: である第定) 総単位数 うち企: うちか。 (うち: である第定) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	s=者評価: C任意記載 sign.ac.jp 業等とと連携 をを楽等とと連携 うちとと連携 を企業等とと連携 を全まます。 な変異 な変異 な変異 な変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を	た実験・実習の授業 等と連携した た実験での単位 た実験での単位 たた演響の単位 たた演響の単位 たた演響の単位 もたがあってとき やでもあってとき したオンター	留・実技の授業 業時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・シップの搭 ・実技の単位 立数 ・必修の演習の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実習・実計 が授業時数) を業時数) を業時数) ・支 ・支 ・生位数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	対の授業時数 支の授業時数 支の単位数 対の単位数 対数置基準第41条第1項第 対数置基準第41条第1項第	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位中間 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL を実等等の実施がれかに記入)	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 ま、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企	s=者評価: C任意記載 sign.ac.jp 業等とと連携 をを楽等とと連携 うちとと連携 を企業等とと連携 を全まます。 な変異 な変異 な変異 な変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を	た実験・実習の授業 等と連携した た実験での単位 た実験での単位 たた演響の単位 たた演響の単位 たた演響の単位 もたがあってとき やでもあってとき したオンター	留・実技の授業 業時数 -必修の実験・ -必修の演習の -ンシップの搭 ・実技の単位 立数 - と必修の演習の - ンシップの がの実験で 一 との - ンシップの は - シップの は - との - との	実習・実計 が授業時数) を業時数) を業時数) ・支 ・支 ・生位数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	字価 大の授業時数 大の授業時数 大の単位数 大の単位数 大校設置基準第41条第1項第 大校設置基準第41条第1項第 大校設置基準第41条第1項第	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	単位時間 45 単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 0 人 0 人	
学校評価 当該学科のホームページ URL と実等等の更いが、に記入) を実質の展について記した況か	■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 ま、例えば以下について 評価団体: www.kumamoto-de: 立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企	s=者評価: C任意記載 sign.ac.jp 業等とと連携 をを楽等とと連携 うちとと連携 を企業等とと連携 を全まます。 な変異 な変異 な変異 な変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を変異 を	た実験・実習の授業 等と連携した た実験での単位 た実験での単位 たた演響の単位 たた演響の単位 たた演響の単位 もたがあってとき やでもあってとき したオンター	留・実技の授業 業時数 -必修の実験・ -必修の演習の -ンシップの搭 ・実技の単位 立数 - と必修の演習の - ンシップの がの実験で 一 との - ンシップの は - シップの は - との - との	実習・実計 が授業時数) を業時数) を業時数) ・支 ・支 ・生位数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	字価 大の授業時数 大の授業時数 大の単位数 大の単位数 大校設置基準第41条第1項第 大校設置基準第41条第1項第 大校設置基準第41条第1項第	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	単位時間 45 単位時間 45 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 2	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を 積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人 材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科におい て当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教 育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

		י די קוריו	0万1日50日
名 前	所 属	任期	種別
篠原 たかこ	公益財団法人 画像情報教育振興協会 事務局長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	1
薛 力夫	1在二个才 能不切工 巡视员 巨巨	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	2
内藤 謙一		令和7年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_
児玉 守		令和7年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_
永野 夏菜子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和7年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
 - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月29日 15:00~16:00

第2回 令和7年3月17日 14:00~15:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- 〈令和6年8月29日 第1回教育課程編成委員会〉
- (意見)生成AIの活用は、意図したものかどうかや正しい演出であるかを見極める力が重要だ。
- (取組)生成物そのものをそのまま使うのではなく、壁打ちなどで錬成の精度を上げるよう指導した。
- (意見)就活ではポートフォリオ、履歴書の手直し、面接練習を繰り返すことが大事。
- (取組)個々の性格・能力・熱意・希望職種に合わせた個別アドバイスを実施した。
- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

映像やコンテンツ制作において媒体や用途に合った情報を分析し伝達するための表現力を習得する。企業と連携し実務的な一連の工程に 沿ってワークショップや共同制作を行い、知識・技術の向上や業界動向の理解を目的に授業を展開することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な 打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図る とともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企	業 等
	からの講師が全て の授業を主担当	メディア表現を多面的に考察し、映像コンテンツの利用価値を見出す。メディアの特性を活かした情報伝達の手段や映像を活用する知識や手法を学び、送り手と受け手が相互に作用するようなサービスやコンテンツを制作する。また、編集ソフトの技術を養い、実務的な一連の工程をグループワークで演習を行う。	株式会社サンナナ	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、 関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育 法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団 体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 先生がいま知りたい! Adobe Firefly 連携企業等: 加賀ソルネット株式会社

期間: 令和5年11月22日(水)15:00~ 対象: 学校教職員等

内容 アドビ生成AI技術Filefly、Creative Cloud最新機能の解説

研修名: CGWORLD2024 CREATIVE CONFERENCE 連携企業等: 株式会社ボーンデジタル

期間: 令和6年11月18日(月)~22日(金) 対象: 一般・学校教職員等

内容 CG業界国内最大級のカンファレンスイベント 注目作品、最新の技術やテクニックの洞察など

研修名: CEDEC+KYUSHU 2024 連携企業等: CEDEC+KYUSHU 2024実行委員会

期間: 令和6年11月23日(土) 対象: 一般・学校教職員等

内容デジタルエンターテインメント技術の講演・展示ブース

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 最新生成AIトレンドについて 連携企業等:未来創造学園

期間: 令和6年7月31日(水)14時15分~16時 対象: 企業・学校関係者等

内容 AI導入の成功事例、AI活用による地域戦略、人材育成の新しい方法論

研修名: 発達障害のある生徒への具体的な支援/合理的配慮 連携企業等: 熊本市発達障がい者支援センターみなわ

期間: 令和6年8月4日(木)10時~12時 対象: 学校関係者等

内容 合理的配慮の基本、現場で悩みがちなケースの共有、支援や環境調整等についての考え方

研修名: 大学志向が高まる中での専門学校における学生募集戦略とは 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 令和6年9月24日(火)16時~17時 対象: 専門学校教職員等

内容 高等教育機関[大学・専門学校]の最新動向、高校現場における進路研究の最新動向

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第17回 CONTENT TOKYO 連携企業等: 0

期間: 令和7年7月2日(水)~4日(金) 対象: 一般・学校教職員等

内容 映像・CG、広告などのコンテンツビジネスを支えるあらゆる要素が出展する大規模国際総合展

研修名: Wacomクリエイティブウェビナー 連携企業等: Wacom

期間: 令和7年7月22日(水)17:30~19:00 対象: 一般・企業・学校等

内容 長編&ショートアニメ制作の最前線

研修名: CEDEC+KYUSHU 2025 連携企業等: CEDEC+KYUSHU 2025実行委員会

期間: 令和7年11月29日(土) 対象: 一般・企業・学校等

内容 デジタルエンターテインメント技術の講演・展示ブース

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専門学校における発達障害支援とは? 連携企業等: 筑波大学ダボットプロジェクト

期間: 令和7年1月16日(火)17時~19時 対象: 一般・学校教職員等

内容 専門学校における発達障害支援をテーマとし、知見、学生支援の実態、支援ツールの活用について

研修名: 未来の専修学校をつくる~教員研修と卒業生調査のヒント~ 連携企業等:株式会社三菱総合研究所

期間: 令和7年2月18日(火)16時~18時 対象: 専門学校教職員等

内容 教職員とともに成長する学校づくり、教職員への支援のあり方、卒業生調査の活用など

研修名: 教育目標の達成に向けた『入学前』からの指導体制づくり 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 令和7年8月26日(火)15時~16時 対象: 学校関係者等

内容 近年の大学・短大・専門学校進学者の学力や学習習慣、進学意識について分析

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行う に当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互 いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、 公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念·目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	
11/1/11 TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL TOT	

※(10)及び(11)については任意記載

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担任が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対 応している。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのとこと大きな問題となることはなく機能している。 教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行

うとともに、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
有田 滿里子		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
島村 徹		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
田中 千秋		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
古家 達也		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
甲斐 広美		令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	卒業生委員

- ※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
- (例)企業等委員、PTA、卒業生等
- (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

広報誌等の刊行物・その他(

ÙRI https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

公表時期: 令和7年7月1日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提 供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学 校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

学校が設定する項目
ホームページ「学校案内」に掲載
ホームページ「学科紹介」に掲載
ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
ホームページ「就職支援」に掲載
ホームページ「学校生活」に掲載
ホームページ「学校生活」に掲載
ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
ホームページ「財務情報」に掲載
ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

広報誌等の刊行物 ・ その他((ホームペ-

URL: https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

公表時期: 令和7年7月1日

授業科目等の概要

				専門課程 メラ	ディア映像デザイン科(Webクリエイティブ専攻コース	ス))		┃ ┃ 授業方法 ┃ 場所 ┃						教員		
	;	分類	Į				1-		授	業業プ		場	肵	教	頁		
		選択立	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・	授業時	単位	講	演	実験・実習	校	校	専	兼	企業等との	
	修	必修	択			· 学 期	数	数	義	習	je 実 技	内	外	任	任		
1	0			在宏研究 1	基本的な履歴書作成や添え状、お礼状の書き方、 就職活動を行なう上で必要とされるマナーや礼儀 作法を修得し、就職活動に向けて前向きに取り組 む力を身に付ける。	1 後	15		0			0		0			
2	0			ナー	基本的なビジネスマナーを学び、日々のコミュニ ケーションを向上し、社会人として円滑な人間関 係を築くための基礎力を身に付ける。	1 前	30		0	Δ		0			0		
3	0			総合デザイン 論	建築、インテリア、芸術、グラフィック、ファッション、インターネット、ディレクションなど各 デザイン分野の専門知識を広く理解し、視野の広 い発想力を養う。	1 後	15		0			0			0		
4	0			CG概論 I	CGによる映像表現を行うために必要な基礎知識の 理解と、3次元CGや映像制作において必要となる関 連知識を修得する。	1 後	15		0			0		0			
5	0			素材研究	各種材料からテーマに沿った造形物を作成する。 素材の特性や道具の扱いに理解を深め造形力を養 う。	1 前	30			0		0		0			
6	0			映像研究	映像・CG・Web媒体で扱われる既存コンテンツの技 法や表現、市場データから業界動向を考察し、映 像や動的コンテンツのあり方を解説する。	1 通	30		0			0		0			
7	0			CM企画	優れた広告を掘り起こして共通点を見出すことで表現手法や技術を習得する。CMの実例を分析し、それを基に具体的な企画を画コンテに落とし込むことで、企画力とプレゼンテーション能力を身につける。	1 後	45		Δ	0		0			0		
8	0			ベーシックデ ザイン	色の基礎知識を習得するための色彩検定取得と、 その知識を生かしテーマに沿った色彩計画、平面 構成力、画材による表現技法を修得する。	1 通	75		Δ	0		0			0		
9	0			ドローイング	基礎的な絵を描く能力を身につける。実際にモチーフを見ながら描写することで、観察力を鍛え、絵を描く上で必要な絵画的な解釈を学び、立体感、空間表現、構図等の絵画技術を修得する。	1 通	75			0		0		0			
10	0				カメラやスタジオ等の基本操作、写真の基礎知識、歴史を学び、どのような分野の撮影でも活用できるしっかりとした写真撮影に必要な知識の土台をつくる。また写真家の作品を紹介し、現実の世界を写真を通じてさらに高い観察力と表現力を修得する。	1 通	75			0		0			0		
11	0				PCを使用した印刷物制作を通じて、Illustratorと Photoshopのアプリケーションの基本操作を修得す る。文字や画像の画面構成や配色、画像加工・補 正の技能を理解して適切なビジュアル表現を身に つける。	1通	75			0		0		0			

		 •						1				
12	0	ホームページ 基礎	Webサイトが稼働する基本的な仕組みや制作技術について学び、HTML、CSS、JavaScriptのコーディング能力・ソース読解能力を修得する。	1 通	90		0		0	0		
13	0	3DCG基礎	Mayaの機能全般の理解と3D空間での操作感覚を養い、モデリング、マテリアル、マッピング、ライティング、カメラワーク、アニメーションの一連の工程を制作を通じて修得する。	1	##		0		0		0	
14	0	映像基礎	映像制作における専門知識を理解する。放送規格、撮影・編集の基礎概念、制作に必要なソフトウェアの操作法を習得する。		##		0		0		0	
15	0	アニメーショ ン演習	物理法則に即した動きからアニメーション特有のタイミングやタメツメ、ケレンミ表現など、アニメーションの動画作成に必要な描画力と演出力を修得する。	1	45		0		0		0	
16	0	修了制作	テーマに沿った映像による問題解決策を学ぶ。対象の調査分析、企画立案、シナリオ・コンテ作成、撮影・編集、プレゼンテーションまでの一連の工程で必要な技能を養う。	1	##		0		0	0		
17	0	社会研究Ⅱ	自分の将来像を具体的にイメージできるようになる為に、職業観、将来設計能力を養い、人間力、 社会人基礎力を身に付ける。	2 前	15	0			0	0		
18	0	ビジネス概論	就職に備えてルールやマナーを学ぶ。電話のかけ方、話し方、挨拶の仕方、ビジネスシーンでのケーススタディ、社内ルール、経済・金融・流通などについて学修する。	2	15	0			0		0	
19	0	CG概論 Ⅱ	CGによる映像表現を行うために必要な基礎知識の 理解と、3次元CGや映像制作において必要となる関 連知識を修得する。		15	0			0	0		
20	0	テーマ研究	業界動向や企業情報をリサーチし、仕事内容や職種等の理解や将来の職業への関心を深め、就職活動に役立てる。		45	Δ	0		0	0		
21	0	情報デザイン	考え方・分析力・論理力・表現力・提案力を身につけ、思いを明確に伝えたり内容を的確に処理しコミュニケーションを図るための、情報をデザインする力を修得する。	2	30	0			0	0		
22	0	DTP演習	DTPによる印刷物制作を通じて、IllustratorとPhotoshopの操作を修得する。誌面構成において文字と画像、素材のレイアウトカと配色計画の技能を身につける。また、ビジュアルを形成する素材作成の技術を修得する。	<u>۷</u>	45		0		0	0		
23	0	メディアデザ イン	メディアの特性を活かした情報伝達の手段やコンテンツを活用する知識やAfter EffectsやPremiereの編集技術、出力技法を修得する。	2 前	45		0		0		0	0
24	0	映像演習	映像制作においてグループワークの役割分担の必要性やテーマに沿った企画・撮影・編集の技能を修得する。またSNSを活用した情報発信の方法を身につける。	2	##		0		0		0	
25	0	映像企画	映像制作においてクライアントへのヒアリング手法やコンセプトメイキングを学び、適切な演出とメッセージ表現を養う。また、個々の力量や社会との接点を制作を通して理解する。	2	45		0		0		0	
26	0	映像編集	AfterEffects等の映像編集ソフトで映像を効果的 に演出するモーション・エフェクトを自作できる 発想力・技術力を身につける。	2 通	75		0		0	0		

27		0		Webデザイン	スマートフォンやタブレット端末など多様化した デザインを様々な動きで制御・構築するための script (JavaScriptやjQuery等のライブラリ)の 理解を深める演習を行う。また、Web制作のいま・ 業界の今後を知り、Webサイトの制作やデザイン手 法を効果的に実践できる能力を身につける。	2 通	##	0		0			0	
28	0			卒業制作	これまでのメディアデザイン分野等の視覚伝達デザイン領域における歴史的背景や流れが理解でき、それを基に、これからあるべきメディア表現を思索し、自身の考えとして論ずることができる。現代もしくは未来社会に対して問題解決のための具体的な提案ができる能力を習得する。	2 後	##	0		0		0		
			合	計	28	科	目		1920	単位	立 (.	単位	時間)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	÷
・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を 修得する。	1 学期の授業期間	2 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置	置認可年月	日 校	長名	_		所在地			
熊本デザイン専	門学校	平成	5年12月2	4日 校長	内藤謙一	(住所)	862-0973 熊本県熊本市中央区	大江本町2-5			
設置者名		設立	拉認可年月	日代	表者名	(電話)	096-364-8500	所在地			
学校法人未来創	造学園	平成	成22年3月	2日 理事長	吉山昌利		862-0976 熊本県熊本市中央区	九品寺2丁目2-38			
分野		認定課程名	i	認定学科		(電話)	096-362-5656 門士認定年度	高度専門士認定	年度	職業実践専	門課程認定年度
文化•教養	文化	2教養専門語	課程	メディア映像デ· (映像・アニメーシ <u>=</u>		平原	成27(2015)年度			平成2	8(2016)年度
学科の目的	映像、CG. 目的とする		b、マルチメ	ディア等のデザイン分	野において、愉	青報社会に	適応する幅広い知識と実	践に必要な技術を持っ	った人材を	育成し、業界	へ送り出すことを
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	色彩検定	、CGクリエイ	ター検定、	情報検定(J検)							
修業年限	昼夜	全課程の修		な総授業時数又は総 立数	講事	É	演習	実習	実	験	実技
2	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	1,920 単位時間	120	単位時間	1,800 単位時間	0 単位時間		単位時間	0 単位時間
生徒総定員		€員(A)	留学生	単位 数(生徒実員の内数)(B)	留学生割	^{単位} 合(B/A)	中退率	単位		単位	単位
50 人	41	Α		0 人	0	%	10 %				
	■卒業者	数 (C)	:	18	ı	人	_				
	■就職希 ■就職者	望者数 (D) 数 (E)	<u>:</u>	16 15		人	-				
	■地元就	職者数(F)	•	10		\(\)	- -				
	■就職率	(E/D) に占める地	元就職者の	94)割合(F/E)		%	-				
		に占める就職		67		%	-				
			明日 の割 ロ	83		%	_				
就職等の状況	■進学者			2		人	-				
	(令和	6	年度卒業者	に関する令和7年5月	1日時点の情報	級)					
		職先、業界	等								
	(令和6年度 映像制作		Web制作	、広告制作、製造							
							_				
第三者による		評価機関等 、例えば以下					無				
第二句による 学校評価					ni de te 11		評価	結果を掲載した			
		評価団体:			受審年月:			ムページURL			
当該学科の ホームページ	https://w	ww.kumamo	ata_daaiss	in							
URL	nttps.//w	ww.kumam	oto desigi	i.ac.jp							
	(A:単位	立時間による	算定)								
		総授業時数	τ						1, 920	単位時間	
			うち企業等	を連携した実験・実	習・実技の授業	类時数				単位時間	
			うち企業等	と連携した演習の授	業時数				45 .	単位時間	
			うち必修技	2業時数					45 .	単位時間	
				うち企業等と連携した	こ必修の実験・	実習・実	技の授業時数			単位時間	
		_		うち企業等と連携した	こ必修の演習の)授業時数			45 .	単位時間	
企業等と連携した			(うち企業	等と連携したインター	ーンシップの 担	受業時数)				単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		i de .									
に記入)	(B:単f 	位数による算	1定)						•	34 /L	
		総単位数	こナ 小 幸々	と連携した中級。中で	四. 宝せのど	h *h				単位	
		-		を連携した実験・実 と連携した演習の単		2. 双				単位 単位	
		_	うち必修単							単位	
				うち企業等と連携した	こ必修の実験・	実習・実	技の単位数			単位	
				うち企業等と連携した						単位	
	1	-	(うち企業	等と連携したインター						単位	
			())								
			() 3								
			校の専門記	課程を修了した後、学 - 従事した者であって							
		その担当す 程の修業年	校の専門記 る教育等に 限と当該	課程を修了した後、学 −従事した者であって ¢務に従事した期間と	、当該専門課		华校設置基準第41条第1項 第	[1号]	2 .		
		その担当す	校の専門記 る教育等に 限と当該	に従事した者であって	、当該専門課		- 校設置基準第41条第1項第	[1号]	2 .	٨	
		その担当す 程の修業年	校の専門語 る教育等に に限と当該第 こる者	に従事した者であって 業務に従事した期間と	、当該専門課	(等1997	・ 校設置基準第41条第1項第 ・ 校設置基準第41条第1項第		2 .		
教員の属性(専任		その担当す程の修業年年以上とな	校の専門語 る教育等に に限と当該第 こる者	に従事した者であって 美務に従事した期間と トる者等	、当該専門課	(専修学		52号)		٨	
教員について記		その担当す程の修業年年以上とな	校の専門語 る教育等に る者 学位を有る 校教諭等系	- 従事した者であって 表務に従事した期間と 十る者等 - 全験者	、当該専門課	(専修学	·校設置基準第41条第1項第	52号) 53号)	2 .	Д Д	
		その担当す 程の修業年 年以上とな ② 学士の ③ 高等学	校の専門語 る教育等に る教当該 る者 学位を有る 校教諭等系 学位又は	- 従事した者であって 表務に従事した期間と 十る者等 - 全験者	、当該専門課	(専修学 (専修学 (専修学	や校設置基準第41条第1項第 ・校設置基準第41条第1項第	[2号] [3号] [4号]	2 .	Д Д	
教員について記		その担当す程の修業年年以上とな ② 学士の ③ 高等学 ④ 修士の	校の専門語 る教育等に る教当該 る者 学位を有る 校教諭等系 学位又は	- 従事した者であって 表務に従事した期間と 十る者等 - 全験者	、当該専門課	(専修学 (専修学 (専修学	中校設置基準第41条第1項第 中校設置基準第41条第1項第 中校設置基準第41条第1項第	[2号] [3号] [4号]	0 .	Д Д Д	
教員について記		その担当す年 年以上とな ② 学士の ③ 高等学 ④ 修士の ⑤ その他	校の専門語 る教育等に る教当該 る者 学位を有る 校教諭等系 学位又は	- 従事した者であって 表務に従事した期間と 十る者等 - 全験者	、当該専門課	(専修学 (専修学 (専修学	中校設置基準第41条第1項第 中校設置基準第41条第1項第 中校設置基準第41条第1項第	[2号] [3号] [4号]	0 .	Д Д Д	
教員について記		その担当す程の修業な 程の修業な ② 学士の ③ 高等学 ④ 修士の ⑤ その他 計	全校の専門語 る教育等に る教育等に でした有で 学位を有で 学位を有で 学位又は見	に従事した者であって 業務に従事した期間と する者等 経験者 専門職学位	、当該専門課を通算して六	(専修学 (専修学 (専修学	於設置基準第41条第1項第 2校設置基準第41条第1項第 2校設置基準第41条第1項第 2校設置基準第41条第1項第	(525) (535) (545) (556)	0.00	Д Д Д Д	
教員について記		その担当す程の修業をな ② 学士の ③ 高等学 ④ 修士の ⑤ その他 計	せ校の専門記る教育等に る教育等に 関と者 学位を有る 学位を有る 学位又は 見 のうち、 3	に従事した者であって 業務に従事した期間と する者等 経験者 専門職学位	、当該専門課を通算して六	(専修学 (専修学 (専修学	中校設置基準第41条第1項第 中校設置基準第41条第1項第 中校設置基準第41条第1項第	(525) (535) (545) (556)	0 .	Д Д Д Д	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行って いること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえ で、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分 に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を

積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。 教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人 材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科におい て当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教 育課程が決定される。

|(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
篠原 たかこ	公益財団法人 画像情報教育振興協会 事務局長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	1
薛 力夫	株式全才 能 N M + 松林ら ら上	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	2
内藤 謙一	罗环注 毛来副类罗度 能太子开入) 用四字环 罗环上	令和7年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_
児玉 守	罗环注人主义副是罗茵 能不一开入) 用四字环 粉泌工丛	令和7年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_
永野 夏菜子	''¬''\ '\\ + + + - - - - -	令和7年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月29日 15:00~16:00

第2回 令和7年3月17日 14:00~15:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- 〈令和6年8月29日 第1回教育課程編成委員会〉
- (意見)生成AIの活用は、意図したものかどうかや正しい演出であるかを見極める力が重要だ
- (取組)生成物そのものをそのまま使うのではなく、壁打ちなどで錬成の精度を上げるよう指導した。
- (意見)就活ではポートフォリオ、履歴書の手直し、面接練習を繰り返すことが大事。
- (取組)個々の性格・能力・熱意・希望職種に合わせた個別アドバイスを実施した。
- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

映像やコンテンツ制作において媒体や用途に合った情報を分析し伝達するための表現力を習得する。企業と連携し実務的な一連の工程に 沿ってワークショップや共同制作を行い、知識・技術の向上や業界動向の理解を目的に授業を展開することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な 打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図る とともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)目体的な連進の例※科目物については代表的な5科目について記載

科目名	企業連携の方法	科目概要	連	携	企	業	等	
メディアデザイン	1.【校内】企業等 からの講師が全て の授業を主担当	メディア表現を多面的に考察し、映像コンテンツの利用価値を見出す。メディアの特性を活かした情報伝達の手段や映像を活用する知識や手法を学び、送り手と受け手が相互に作用するようなサービスやコンテンツを制作する。また、編集ソフトの技術を養い、実務的な一連の工程をグループワークで演習を行う。			_	*	77	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、 関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育 法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団 体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 先生がいま知りたい! Adobe Firefly 連携企業等: 加賀ソルネット株式会社

期間: 令和5年11月22日(水)15:00~ 対象: 学校教職員等

内容 アドビ生成AI技術Filefly、Creative Cloud最新機能の解説

研修名: CGWORLD2024 CREATIVE CONFERENCE 連携企業等: 株式会社ボーンデジタル

期間: 令和6年11月18日(月)~22日(金) 対象: 一般・学校教職員等

内容 CG業界国内最大級のカンファレンスイベント 注目作品、最新の技術やテクニックの洞察など

研修名: CEDEC+KYUSHU 2024 連携企業等: CEDEC+KYUSHU 2024実行委員会

期間: 令和6年11月23日(土) 対象: 一般・学校教職員等

内容デジタルエンターテインメント技術の講演・展示ブース

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 最新生成AIトレンドについて 連携企業等:未来創造学園

期間: 令和6年7月31日(水)14時15分~16時 対象: 企業・学校関係者等

内容 AI導入の成功事例、AI活用による地域戦略、人材育成の新しい方法論

研修名: 発達障害のある生徒への具体的な支援/合理的配慮 連携企業等: 熊本市発達障がい者支援センターみなわ

期間: 令和6年8月4日(木)10時~12時 対象: 学校関係者等

内容 合理的配慮の基本、現場で悩みがちなケースの共有、支援や環境調整等についての考え方

研修名: 大学志向が高まる中での専門学校における学生募集戦略とは 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 令和6年9月24日(火)16時~17時 対象: 専門学校教職員等

内容 高等教育機関[大学・専門学校]の最新動向、高校現場における進路研究の最新動向

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第17回 CONTENT TOKYO 連携企業等: 0

期間: 令和7年7月2日(水)~4日(金) 対象: 一般・学校教職員等

内容 映像・CG、広告などのコンテンツビジネスを支えるあらゆる要素が出展する大規模国際総合展

研修名: Wacomクリエイティブウェビナー 連携企業等: Wacom

期間: 令和7年7月22日(水)17:30~19:00 対象: 一般・企業・学校等

内容 長編&ショートアニメ制作の最前線

研修名: CEDEC+KYUSHU 2025 連携企業等: CEDEC+KYUSHU 2025実行委員会

期間: 令和7年11月29日(土) 対象: 一般・企業・学校等

内容 デジタルエンターテインメント技術の講演・展示ブース

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専門学校における発達障害支援とは? 連携企業等: 筑波大学ダボットプロジェクト

期間: 令和7年1月16日(火)17時~19時 対象: 一般・学校教職員等

内容 専門学校における発達障害支援をテーマとし、知見、学生支援の実態、支援ツールの活用について

研修名: 未来の専修学校をつくる~教員研修と卒業生調査のヒント~ 連携企業等:株式会社三菱総合研究所

期間: 令和7年2月18日(火)16時~18時 対象: 専門学校教職員等

内容 教職員とともに成長する学校づくり、教職員への支援のあり方、卒業生調査の活用など

研修名: 教育目標の達成に向けた『入学前』からの指導体制づくり 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 令和7年8月26日(火)15時~16時 対象: 学校関係者等

内容 近年の大学・短大・専門学校進学者の学力や学習習慣、進学意識について分析

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行う に当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互 いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、 公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念·目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	
11/1/11 TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL TOT	

※(10)及び(11)については任意記載

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担任が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対 応している。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのとこと大きな問題となることはなく機能している。 教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行

うとともに、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
有田 滿里子		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
島村 徹		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
田中 千秋		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
古家 達也		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
甲斐 広美		令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	卒業生委員

- ※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
- (例)企業等委員、PTA、卒業生等
- (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

広報誌等の刊行物・その他(

ÙRI https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

公表時期: 令和7年7月1日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提 供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学 校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

する項目
_

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

広報誌等の刊行物 ・ その他((ホームペ-

URL: https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing

公表時期: 令和7年7月1日

授業科目等の概要

				専門課程 メラ	「ィア映像デザイン科(映像・アニメーション専攻コ	<u>-</u> -2	く)))	I ==	بالد 3	L\L			Ţ,,		
	\vdash :	分類	Į			Tr-=	J		授	業実フ		場	肵	教	貝	
		選択必	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・	授業時	単位	講	演	実験・実習	校	校	専	兼	企業等との
	修	必修	択			学期	数	数	義	習	実技	内	外	任	任	
1	0			在宏研究 1	基本的な履歴書作成や添え状、お礼状の書き方、 就職活動を行なう上で必要とされるマナーや礼儀 作法を修得し、就職活動に向けて前向きに取り組 む力を身に付ける。	1 後	15		0			0		0		
2	0			ナー	基本的なビジネスマナーを学び、日々のコミュニ ケーションを向上し、社会人として円滑な人間関 係を築くための基礎力を身に付ける。	1 前	30		0	Δ		0			0	
3	0			総合デザイン 論	建築、インテリア、芸術、グラフィック、ファッション、インターネット、ディレクションなど各 デザイン分野の専門知識を広く理解し、視野の広 い発想力を養う。	1後	15		0			0			0	
4	0			CG概論 I	CGによる映像表現を行うために必要な基礎知識の 理解と、3次元CGや映像制作において必要となる関 連知識を修得する。	1 後	15		0			0		0		
5	0			素材研究	各種材料からテーマに沿った造形物を作成する。 素材の特性や道具の扱いに理解を深め造形力を養 う。	1 前	30			0		0		0		
6	0			映像研究	映像・CG・Web媒体で扱われる既存コンテンツの技 法や表現、市場データから業界動向を考察し、映 像や動的コンテンツのあり方を解説する。	1 通	30		0			0		0		
7	0			CM企画	優れた広告を掘り起こして共通点を見出すことで表現手法や技術を習得する。CMの実例を分析し、それを基に具体的な企画を画コンテに落とし込むことで、企画力とプレゼンテーション能力を身につける。	1 後	45		Δ	0		0			0	
8	0			ベーシックデ ザイン	色の基礎知識を習得するための色彩検定取得と、 その知識を生かしテーマに沿った色彩計画、平面 構成力、画材による表現技法を修得する。	1 通	75		Δ	0		0			0	
9	0			ドローイング	基礎的な絵を描く能力を身につける。実際にモチーフを見ながら描写することで、観察力を鍛え、絵を描く上で必要な絵画的な解釈を学び、立体感、空間表現、構図等の絵画技術を修得する。	1 通	75			0		0		0		
10	0				カメラやスタジオ等の基本操作、写真の基礎知識、歴史を学び、どのような分野の撮影でも活用できるしっかりとした写真撮影に必要な知識の土台をつくる。また写真家の作品を紹介し、現実の世界を写真を通じてさらに高い観察力と表現力を修得する。	1通	75			0		0			0	
11	0				PCを使用した印刷物制作を通じて、Illustratorと Photoshopのアプリケーションの基本操作を修得す る。文字や画像の画面構成や配色、画像加工・補 正の技能を理解して適切なビジュアル表現を身に つける。	1 通	75			0		0		0		

		 •										
12	0	ホームページ 基礎	Webサイトが稼働する基本的な仕組みや制作技術について学び、HTML、CSS、JavaScriptのコーディング能力・ソース読解能力を修得する。	1 通	90		C		0	0		
13	0	3DCG基礎	Mayaの機能全般の理解と3D空間での操作感覚を養い、モデリング、マテリアル、マッピング、ライティング、カメラワーク、アニメーションの一連の工程を制作を通じて修得する。	1	##		C)	0		0	
14	0	映像基礎	映像制作における専門知識を理解する。放送規格、撮影・編集の基礎概念、制作に必要なソフトウェアの操作法を習得する。		##		C		0		0	
15	0	アニメーショ ン演習	物理法則に即した動きからアニメーション特有のタイミングやタメツメ、ケレンミ表現など、アニメーションの動画作成に必要な描画力と演出力を修得する。	1	45		C)	0		0	
16	0	修了制作	テーマに沿った映像による問題解決策を学ぶ。対象の調査分析、企画立案、シナリオ・コンテ作成、撮影・編集、プレゼンテーションまでの一連の工程で必要な技能を養う。	1	##		C)	0	0		
17	0	社会研究Ⅱ	自分の将来像を具体的にイメージできるようになる為に、職業観、将来設計能力を養い、人間力、 社会人基礎力を身に付ける。	2 前	15	(0	0		
18	0	ビジネス概論	就職に備えてルールやマナーを学ぶ。電話のかけ方、話し方、挨拶の仕方、ビジネスシーンでのケーススタディ、社内ルール、経済・金融・流通などについて学修する。	2	15	()		0		0	
19	0	CG概論 Ⅱ	CGによる映像表現を行うために必要な基礎知識の理解と、3次元CGや映像制作において必要となる関連知識を修得する。		15	(0	0		
20	0	テーマ研究	業界動向や企業情報をリサーチし、仕事内容や職種等の理解や将来の職業への関心を深め、就職活動に役立てる。		45	,	Δ		0	0		
21	0	情報デザイン	考え方・分析力・論理力・表現力・提案力を身につけ、思いを明確に伝えたり内容を的確に処理しコミュニケーションを図るための、情報をデザインする力を修得する。	2	30	(0		0	0		
22	0	DTP演習	DTPによる印刷物制作を通じて、IllustratorとPhotoshopの操作を修得する。誌面構成において文字と画像、素材のレイアウトカと配色計画の技能を身につける。また、ビジュアルを形成する素材作成の技術を修得する。	<u>۷</u>	45		C)	0	0		
23	0	メディアデザ イン	メディアの特性を活かした情報伝達の手段やコンテンツを活用する知識やAfter EffectsやPremiereの編集技術、出力技法を修得する。	2 前	45		C)	0		0	0
24	0	映像演習	映像制作においてグループワークの役割分担の必要性やテーマに沿った企画・撮影・編集の技能を修得する。またSNSを活用した情報発信の方法を身につける。	2	##		C)	0		0	
25	0	映像企画	映像制作においてクライアントへのヒアリング手法やコンセプトメイキングを学び、適切な演出とメッセージ表現を養う。また、個々の力量や社会との接点を制作を通して理解する。	2	45		C)	0		0	
26	0	映像編集	AfterEffects等の映像編集ソフトで映像を効果的 に演出するモーション・エフェクトを自作できる 発想力・技術力を身につける。	2 通	75		C)	0	0		

27		0			3DCG制作ソフトでCG作品を作成する技術やアニメーションのテクニックを学ぶ。他のソフトと連携したモデリングやマッピング素材の作成・ライティング・パーティクルなどの操作からレンダリングまでの一連の制作技能を習得する。		##	0		0			0	
28	0			卒業制作	これまでのメディアデザイン分野等の視覚伝達デザイン領域における歴史的背景や流れが理解でき、それを基に、これからあるべきメディア表現を思索し、自身の考えとして論ずることができる。現代もしくは未来社会に対して問題解決のための具体的な提案ができる能力を習得する。	2 後	##	0		0		0		
			合	計	28	科	目		1920	単位	立 (.	単位	時間)

卒業要件及び履修方法	授業期間等				
・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること	1 学年の学期区分	2 期			
慶修方法 : 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を 修得する。	1 学期の授業期間	2 週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。